

家族インタビュー

久しぶりに家族の介護の経験を記事にする企画が立ち、MHさんの娘さん(HKさん)のお宅にインタビューに伺いました。その報告です。

MHさん(87才)は2012年から、つどいの家「はむろ」のデイサービスを利用され、今では週4日利用されておられます。穏やかな性格で聞き上手なので、皆さんとは本当に楽しそうに過ごされています。

中越が話を伺い、HKご夫妻とMHさんも同席されました。

中越 早速ですが、認知症の症状に気づいたのはいつ頃でしたか。

HK 10年位前(2007年)です。約束を忘れて待ち合わせの所に来なかったり、高価な宝石の請求書が届いて本人は知らないと、覚えていないんですね。「なんで? きっちりした人なのに!。どうしてあげたら良いの」。そんな思いでした。

中越 いろいろ勉強したり相談したりされたんでしょう。

HK 友達に相談してHクリニックに行ったり、新阿武山病院で診断(アルツハイマー病)を受けました。同居の父は母の状態を認めたくないという想いがあって、施設など反対でしたね。

中越 男性が介護の立場になると困ることが多く、受け入れられずに悩みが多いですね。

HK 病院に家族会があって父は勧められて参加した事があります。そこで色々自分の事を話していたことを覚えています。

中越 お母さんの介護に関わったのはいつ頃でしたか。

HK 2007 年に退職してからです。2012 年 4 月には腎臓病があった父が 84 才で割と急に亡くなりました。一人暮らしになって私が通う事になりました。夕食を私の家でして、夜タクシーで母の家に帰宅して一緒に泊まるという事が 1 年位続きました。

中越 「はむろ」にはどういういきさつで来られたのですか。

HK 父の許可が出て 3 軒のデイサービスを見たのですが、「はむろ」を見てすぐここが良いと決めました。職員の皆さんのが楽しそうにしていましたから。

中越 「明るく、楽しく、生き生きと」がモットーですから、とにかくスタッフが真っ先に楽しんでいます。「はむろ」からの帰宅先は今日は自宅で、次は娘さん宅へと色々ですね。

HK 母は自宅が好きですから尊重しています。私の家に来るのもだんだん慣れてきて、田舎に帰っているという気分ですね。母が初めて私たちの家に泊まったのは 8 ヶ月後です。どうしてもお正月をみんなで迎えたくて、大みそかにやや強引に母に泊まるようにお願いしました。夫が車で送迎してくれているので助かります。送迎だけでなく外出や旅行なども一緒にしてくれます。

中越 「はむろ」では温和に楽しんでおられ、人の話にも反応良いのでみなさん愛されていますね。二つの家を行き来して大変だと思いますが。なにか困っている事はありませんか。

HK すぐには思いつきませんが・・・。私がきつい口調や大声で母に言うとす

ごく嫌がって、母も大声で言い返します。

父が生きていた時には、壁や床がへこんでいた事がありました。おそらく母がものを投げた跡でしょう。

中越 今の状態はいかがですか。

HK 出来る事が少なくなっています。テレビを見たり、新聞や本を読む事も少なくなっています。

中越 出来る事はどんなことでしょう。

HK 出来る事は一緒にしています。調理で野菜を洗うとか、果物の皮を手でもぐとか、炒めるとかはしています。歌を歌ったり、口ずさんだりもしています。

中越 「はむろ」でも楽しそうに一緒に歌っていますね。

HK はむろの情報は違う角度から見れるので助かります。

中越 最後に今後の心配がありましたら。

HK 私と夫のどちらかが倒れたら心配ですね。

中越 本当ですね。介護は一人になると負担が大きいですから、お互いに健康を維持することが大切ですね。今日は本当にありがとうございました。

(MHさんは終始ニコニコと同席され、自分の事が話題になっていると分かると「いろいろお世話になります」と言われる。娘さんは「はむろ」のケア会議にもお母さんと参加され、本人にも世間にも隠す事なくオープンにされている前向きな姿に感服しました。)

